予算特別委員会の討論（要旨）

足立区議会自由民主党

	原案	修正案
一般会計	賛成	反対
国民健康保険特別会計	賛成	―
介護保険特別会計	賛成	―
後期高齢者医療特別会計	賛成	―
老人保健医療特別会計	賛成	―
一般会計補正	賛成	―

本予算案は、近藤区政初の年間総合予算であり「『こども・環境・治安』3つの鍵で拓こう！足立の未来」と銘打った、メリハリの利いた予算となった。

一般会計予算の総額は、2千174億円となり、前年度より29億円の減額となった。

こども施策では、「あだちキッズぱれっと」や、「おいしい給食日本一」の取り組みを評価する一方、今後は、庁内のより横断的な事業展開が必要となっていることを指摘しておく。

環境対策では、区民一丸となっての継続的な取り組みが欠かせない。「環境サミットin足立」では、足立区からストップ温暖化を世界に発信していけるような事業展開を期待する。

治安対策では、ワンチャリ・ツーロック作戦の展開で、都内刑法犯認知件数ワースト1からの脱却を目指す一方、歩きタバコと吸殻のポイ捨て禁止等、迷惑喫煙防止パトロールを徹底することで、こうした取り組みの相乗効果を期待している。

高山 延之
委員

このように、重点項目となった三つの分野は、区民生活に直結した取り組みであり、大変評価できるものである。

今国会では、ガソリン税の暫定税率の維持か撤廃かが大きな議論を呼んでいるが、竹ノ塚駅付近鉄道立体化の実現には、道路特定財源の維持が欠かせない。

また、都区財政調整交付金に多くの財源を依存する当区の行財政運営にとっては、今後の税制改正の動向を引き続き注視していかなければならない。

歳出面では、生活保護費等の扶助費の増大や、膨大な公共施設更新経費が予測され、今後、区民との協働の視点から、各施設やサービスのあり方についての再構築が求められている。

また、基金積立では、中長期的な視点に立って区債残高とのバランスに配慮しつつ、最大限の努力を行っていく必要がある。

最後に、我が党の委員が指摘した事項等は、本予算の執行に当たって確実に反映されることを強く要望し討論とする。

足立区議会公明党

	原案	修正案
一般会計	賛成	反対
国民健康保険特別会計	賛成	―
介護保険特別会計	賛成	―
後期高齢者医療特別会計	賛成	―
老人保健医療特別会計	賛成	―
一般会計補正	賛成	―

平成20年度予算は、近藤区長が初めて編成した予算であり、こども施策、環境施策、治安回復施策に集中的に行財政資源を配分している。

こども施策では、「あだちキッズぱれっと」、「放課後学びの場」の整備を進め、平成22年度までに、区内小・中学校全校で実施予定である。

環境施策では、「（仮称）環境サミットin足立」や、太陽光発電システム設置補助金の拡充等により、平成24年までに温室効果ガス排出量は10％削減、ゴミは8％減量を目指している。

治安回復施策では、「ワンチャリ・ツーロック作戦」によるビューティフル・ウィンドウズ理論の実践により、安心して暮らせる美しい街を目指している。

これらの多くは、我が党が要望してきた事業であり、大いに評価する。

一般会計予算は、前年度より29億円の減であるが、収入では、特別区財政調整交付金が初めて1千億円を突破した。

このように、交付金依存度が高い当区は、多分野でのアウトソーシングや、区民との協働等による改革を進め、公共サービスの充実を図るべきである。

渕上　隆
委員

それには、政策形成能力を高めることが重要であり、区の体制や横断的組織を早急に構築していくことを要望する。

しかし、区民にとってより重要なのは、所得の向上等による生活の向上である。

区内産業も時代に即した振興策が必要であり、若者や女性、中高年の就労支援等による世帯の所得向上策も必要である。

その上で、子育て支援のさらなる充実と、高齢者が安心して暮らせる介護保険等の体制作りも重要な課題である。

また、子どもの能力を伸ばすには、教育が大きな役割を担っている。将来、子どもたちが社会で力を発揮できるように育てられる体制を構築すべきである。

最後に、我が党の様々な提案にも真摯に対応していただけるよう要望する。

近藤区長の初の予算編成である本予算案は、一部に区民要望に応えるものはあるものの、区財政確保が最優先され、基金積立残高は過去最高の852億円に到達した。一括償還額をはるかに超える減債基金を積む等、そのため込み方は異常である。

一方、重度障害者の巡回入浴サービス等、わずか140万円でできる施策も「バランス」を理由に有料にし、住民税の負担軽減に背を向ける等、区民生活を支える視点が弱い予算と言える。

また、原油・原材料高騰の影響への対策は、低所得者等への対応も、事業者への融資改善も行わない冷たい姿勢である。

区長は、「こども」「環境」「治安」を新年度予算の3つの柱として打ち出した。

しかし、こども分野では、保育料の値上げを行い、既に12区で実施され600万円で実現可能なこども医療費の入院給食費助成は、検討もしていない。

環境でも、プラスチック容器までリサイクルせずに、4月から全域で燃やすことを強行する。

ぬかが 和子
委員

我が党は、予算修正案を提出した。基金のわずか1.6％を活用し、ムダを省けば38の新規・拡充事業を行うことができ、生活支援を充実できるものである。

なお、道路特定財源の暫定税率を廃止しても、道路整備に税金が使えないわけではなく、大切なのは、開かずの踏切対策等住民の命と安全に関わる緊急対策を優先することである。

我が党は、竹ノ塚駅付近鉄道立体化事業が実現できるよう、今後も、超党派で力を尽くす決意である。

また、国保会計、後期高齢者医療特別会計予算とも、低所得者ほど保険料の負担増の割合が高く、格差を拡大させる保険料負担になる。

後期高齢者を現役世代から切り離し、新たな負担増を強い、給付内容も高齢者を差別する制度改悪は認められない。

区長は、自治体の長として、格差を縮小し、区民の負担を軽減する立場に立つよう求める。

現在、アメリカのサブプライムローン問題に端を発した世界的な経済の混乱が続いている。

このような中で編成された予算案は、「こども施策」「環境施策」「治安回復施策」に重点を置いている。

その中で、こんにちは赤ちゃん訪問事業、日本一のおいしい給食、公共施設の地球温暖化対策事業、ワンチャリ・ツーロック作戦等の施策が盛り込まれた。

子どもたちが元気に育ち、将来のために豊かな環境を残し、安心して暮らせる安全な街にするという明確なメッセージが伝わる予算と評価できる。

ただし、4月から廃プラスチックの分別をしないのは大変残念である。プラスチックは全て焼却ではなく、新たな分別品目を少しずつ作っていくという答弁に期待する。

また、「環境サミットin足立」において、廃プラスチックの分別回収も行っている等、足立区よりも先進的な取り組みをしている自治体と肩を並べて「環境先進区」を宣言することは、内外の批判を生む可能性もあるが、環境サミットまでに、他の自治体や海外にも胸を張れるような実効性のある取り組みを進めることを望む。

長谷川 たかこ
委員

最後に次のことを指摘する。

「犯罪ゼロ週間」等、区民の防犯意識を向上させること。国際化を見据えた多文化共生条例の制定をすること。「いじめへの対応マニュアル」の策定、待機児童の解消、フリーター・ニートである若者への自立支援等、こども若者施策を進めること。

都民ゴルフ場跡地の自然保護を図ること。交通網が十分でない地域へのコミュニティバスの開通を進めること。公共施設や区の印刷物等のカラーユニバーサルデザインを進めること。廃プラスチックの分別をさらに進めること。あだちブランドのPR等を十分に検討すること。区独自の不妊治療の助成を行うこと。

以上、委員会での議論の内容を十分に念頭に置いて、執行されることを強く要望する。

日本共産党足立区議団

	原案	修正案
一般会計	反対	賛成
国民健康保険特別会計	反対	―
介護保険特別会計	賛成	―
後期高齢者医療特別会計	反対	―
老人保健医療特別会計	賛成	―
一般会計補正	賛成	―

足立区議会民主党

	原案	修正案
一般会計	賛成	反対
国民健康保険特別会計	賛成	―
介護保険特別会計	賛成	―
後期高齢者医療特別会計	賛成	―
老人保健医療特別会計	賛成	―
一般会計補正	賛成	―